

2024年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2023年11月13日

上場会社名 円谷フィールドホールディングス株式会社 上場取引所 東
 コード番号 2767 URL <https://www.tsuburaya-fields.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 山本 英俊
 グループ最高経営責任者

問合せ先責任者 (役職名) 上席執行役員 (氏名) 畑中 英昭 (TEL) 03-5784-2111

四半期報告書提出予定日 2023年11月14日 配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)
 (百万円未満切捨て)

1. 2024年3月期第2四半期の連結業績 (2023年4月1日～2023年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第2四半期	67,015	58.7	5,370	52.0	5,907	57.4	4,123	62.6
2023年3月期第2四半期	42,230	13.1	3,534	885.9	3,753	528.4	2,536	702.7

(注) 包括利益 2024年3月期第2四半期 3,655百万円 (9.9%) 2023年3月期第2四半期 3,326百万円 (528.7%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年3月期第2四半期	63.03	62.82
2023年3月期第2四半期	39.22	38.91

(注) 当社は、2023年3月22日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っています。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり四半期純利益および潜在株式調整後1株当たり四半期純利益を算定しています。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年3月期第2四半期	95,841	43,581	41.9
2023年3月期	80,893	41,817	48.4

(参考) 自己資本 2024年3月期第2四半期 40,115百万円 2023年3月期 39,120百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年3月期	—	0.00	—	30.00	30.00
2024年3月期	—	0.00	—	—	—
2024年3月期(予想)	—	—	—	30.00	30.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2024年3月期の連結業績予想 (2023年4月1日～2024年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	123,000	5.0	12,000	9.6	12,200	8.7	8,500	3.4	129.97

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

「1株当たり当期純利益」の算定上の基礎となる期中平均株式数については、2023年3月31日現在の発行済株式数(自己株式数を除く)を使用しています。

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2024年3月期2Q	69,400,000株	2023年3月期	69,400,000株
② 期末自己株式数	2024年3月期2Q	3,972,849株	2023年3月期	4,001,382株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2024年3月期2Q	65,419,983株	2023年3月期2Q	64,663,366株

(注) 当社は、2023年3月22日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っています。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、期末発行済株式数（自己株式を含む）、期末自己株式数および期中平均株式数（四半期累計）を算定しています。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件等については、添付資料P. 2「1. 当四半期決算に関する定性的情報（1）経営成績に関する説明」およびP. 4「（2）今後の見通しについて」をご覧ください。

（決算説明資料の入手方法）

・当社は2023年11月14日（火）に機関投資家・アナリスト向けに説明会を開催する予定です。この説明会で使用した資料については、開催後速やかに当社ホームページに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 今後の見通しについて	4
(3) 財政状態に関する説明	5
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	10
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	11
(セグメント情報等)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間（以下、当期）におけるわが国経済は、コロナ禍からの脱却が進み社会経済活動が正常化する中で景気は緩やかな改善傾向にあります。余暇市場では人流が戻り、夏休みの国内旅行や訪日観光客によるインバウンド消費がコロナ前水準にまで回復するなどサービス業を中心に景気を下支えています。

当社グループは2026年3月期を最終年度とする3ヵ年中期経営計画をスタートしました。グループの企業理念である「すべての人に最高の余暇を」の実現に向けて、「グローバルコンテンツビジネス企業への挑戦」に向けた取り組みを着実に推し進めております。成長領域であるコンテンツ&デジタル事業では、映像作品の展開、テーマパーク展開、マーチャンダイジング展開を3軸とした好循環による「中国・ASEAN地域での円谷ブランド確立」と、保有IPの価値向上を目指しております。また、収益基盤としてのPS事業では、より中長期的な視点に立ち「全国展開している業界唯一のディストリビューターの使命である、レジャーとしてのPSセクターの健全な発展に貢献」するため、メーカーに対しては全国のファン・ホールから収集した膨大な定性的・定量的情報に加え、ファンが望むヒットに繋がるIPの提供、またホールに対してはファンに支持される商品の安定供給に加え、全国から収集したファンのニーズに関する情報を地域毎にカスタマイズして提供しております。この施策を通じて、最終的にはクオリティの高いパチンコ・パチスロ機を毎月1タイトルずつ提供できる体制の構築を目指しております。

当期は中期経営計画に沿った事業活動の結果、前年同期比で大幅な増収増益となりました。引き続き本中期経営計画に則り様々な施策に取り組むことで盤石な経営基盤を確立し、持続的な成長を目指して参ります。

当期の連結業績は売上高67,015百万円（前年同期比58.7%増）、営業利益5,370百万円（同52.0%増）、経常利益5,907百万円（同57.4%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は4,123百万円（同62.6%増）となりました。なお、当第2四半期よりダイコク電機(株)が持分法適用関連会社となったことから持分法による投資利益として395百万円が計上されております。

各セグメントの概況は、以下の通りです。

コンテンツ&デジタル事業セグメント

[表1：(株)円谷プロダクション事業収入の推移]

(単位：百万円)

	2022年4月-9月 (前第2四半期累計期間)	2023年4月-9月 (当第2四半期累計期間)	増減率 (%)
海外MDライセンス収入	1,294	2,348	+81.4%
うち中国	1,026	2,103	+104.9%
国内MDライセンス収入	1,009	1,085	+7.5%
MDライセンス収入合計	2,304	3,434	+49.0%
映像事業収入	1,299	1,279	△1.5%

中国MDライセンス収入：21.0億円（対前年同期 104.9%増）

トレーディングカードが引き続き業績をけん引する中で、ブロック玩具も好調で当期の中国MDライセンス収入は対前年同期比で2倍程度の増収となりました。

中でも昨年からの玩具以外のカテゴリーを拡充するため新規ライセンシーの獲得に取り組んだ結果、アパレルや文具など玩具以外のカテゴリーは前年同期から大きく拡大しております。

国内MDライセンス収入：10.8億円（対前年同期 7.5%増）

来場者が7万人を超え大盛況だった『ウルトラヒーローズEXPO 2023 サマーフェスティバル』を筆頭に、行動制限解除を受けて夏休みの各種イベントやライブショーの集客は前年を大きく上回り、物販も好調でした。7月にオープンした西武園ゆうえんちのアトラクションでもオリジナル商品が人気となりました。ウルトラマン以外にも3月に公開し52万人を動員した映画『グリッドマン ユニバース』関連商品が好調でした。

以上の結果、コンテンツ&デジタル事業セグメントの当期業績は、売上高7,409百万円（前年同期比22.5%増）、営業利益1,980百万円（同22.1%増）となりました。

PS事業セグメント

フィールズ（株）では当期の販売タイトルが好調で、パチンコ8.5万台、パチスロ4.0万台、合計12.6万台（前年同期比+4.1万台）の販売実績となりました。主な販売タイトルは下表3の通りです。

[表2：PS事業セグメントの遊技機販売台数]

	2022年4月-9月 (前第2四半期累計期間)	2023年4月-9月 (当第2四半期累計期間)	増減 (台数)
パチンコ	56,814台	85,748台	+28,934台
パチスロ	27,544台	40,277台	+12,733台
合計	84,358台	126,025台	+41,667台

[表3：2024年3月期第2四半期までの主な販売タイトル]

区分	主な販売タイトル	納品月	計上台数	
パチンコ	P コードギアス 反逆のルルーシュ Rebellion to Re;surrection	5月	2.0万台	8.5万台
	P 百花繚乱	9月	1.0万台	
	その他、シリーズ機や再販など	-	5.5万台	
パチスロ	L ベルセルク無双	6月	1.4万台	4.0万台
	S 織田信奈の野望 全国版	7月	0.6万台	
	L エヴァンゲリオン ～未来への創造～	10月	1.6万台	
	その他	-	0.3万台	
合計			12.6万台	

上記に加え、ホールの基幹機種としてファンから高い支持を得ているパチンコ『新世紀エヴァンゲリオン ～未来への咆哮～』の再販（2.4万台）や同機種をより遊びやすくしたライトスペック（1.0万台）も販売致しました。

その他、新規IPの取得、遊技機の開発・製造体制の整備・強化をはじめ中期経営計画の達成に向けた各種取り組みが順調に進捗しております。

以上の結果、PS事業セグメントの当期の業績は売上高59,022百万円（前年同期比67.0%増）、営業利益4,506百万円（同133.1%増）となりました。

その他事業

その他事業の当期業績は、売上高805百万円、営業利益20百万円となりました。

(2) 今後の見通しについて

コンテンツ&デジタル事業セグメント

中期経営計画の達成に向け、今後は後述のように3年後を見据えた足場固めを計画通りに進めております。

Netflixと(株)円谷プロダクションの共同製作による2024年公開のCGアニメーション長編映画のタイトルは『ULTRAMAN: RISING』となりました。CGアニメーション制作は、スターウォーズ等で実績のあるIndustrial Light & Magic社(ジョージ・ルーカスが設立。エミー賞3回、アカデミー視覚効果賞15回受賞)が手掛けております。この映像作品により、まだウルトラマンの認知度が低い北米での新たなファンの獲得が期待できます。本映像作品にあわせた北米での商品展開に向け5月にロサンゼルスに子会社を設立し、パートナー企業と準備を進めております。

中国では、新設された鄭州市「鄭州オーシャンパーク」内にウルトラマンエリアが10月にオープンしました。中国で初めてとなるウルトラマンと怪獣をテーマにした複数のアトラクションが設置され、来年初には同テーマパーク併設施設としてホテル、レストランやショップなどの施設が揃う「ウルトラマンタウン」がオープンする予定です。また、国内でも12月に東京ドームシティで体験型VRアトラクション「ウルトラセブン THE ATTRACTION 史上最速の作戦」がオープン予定です。

本年10月には、グローバルで拡大を続けるカードゲーム市場に本格参入すべく、世界展開を見据えた新たな『ウルトラマン カードゲーム』の事業について発表しました。11月24、25日にシンガポールで開催されるAFA(Anime Festival Asia)を皮切りに、順次世界各国でお披露目して参ります。なお、現在中国で人気を博しているカードゲームは商品設計や対象ユーザー等が異なるため、引き続き積極的な展開を続けて参ります。

デジタルサービス領域では、現在ウルトラマンシリーズや怪獣のコンテンツを活用した各種ゲームの企画開発を推進しており、来年度中には全世界を対象に複数のゲームアプリをリリースする予定です。

また、多様な消費者ニーズに応えるための販売チャネル拡充策として、新たに海外でのEC展開の検討を始めております。

デジタル・フロンティア

最先端の映像制作技術を誇る(株)デジタル・フロンティアは、Netflix、大型アニメ映画やゲーム案件の順調な受注に加え、デジタルアセットを活用したWEBサービス等も積極的に展開しております。

PS事業セグメント

遊技機業界では昨年より導入された6.5号機及びスマートパチスロにおいてヒット機が登場しパチスロが市場全体をリードしております。こうしたなか、パチンコでも下半期にかけて話題性のある機種が順次導入予定であり、ホールおよびファンからは市場活性化に向け期待が寄せられております。

フィールズ(株)は第3四半期に向けて現在パチンコ2機種、パチスロ2機種を販売しております。シリーズ最新作『ぱちんこ シン・エヴァンゲリオン』は6万台の販売計画を大きく上回るご注文をいただき既に完売致しました。またプライベートブランド初のスマートパチスロ『Lリングにかける1V』も計画を超えて1.8万台完売致しました。その他販売中の機種ならびに第4四半期の販売準備も計画通り進捗しております。

現時点では2024年3月期の連結業績予想達成に向け順調であり、5月15日公表の内容から変更はありません。

(注1) 本短信に記載の数値は各社・各団体の公表値または当社推計によるものです。

(注2) 本短信に記載の商品名は各社の商標または登録商標です。

(3) 財政状態に関する説明

(資産)

流動資産は、71,236百万円と前連結会計年度末比12,367百万円の増加となりました。これは主に売上債権の増加によるものです。

有形固定資産は、5,560百万円と前連結会計年度末比265百万円の増加となりました。これは主に建物及び構築物の増加によるものです。

無形固定資産は、2,717百万円と前連結会計年度末比170百万円の減少となりました。これは主にのれんの減少によるものです。

投資その他の資産は、16,326百万円と前連結会計年度末比2,485百万円の増加となりました。これは主に投資有価証券の増加によるものです。

以上の結果、資産の部は95,841百万円と前連結会計年度末比14,948百万円の増加となりました。

(負債)

流動負債は、42,609百万円と前連結会計年度末比12,120百万円の増加となりました。これは主に仕入債務の増加によるものです。

固定負債は、9,650百万円と前連結会計年度末比1,064百万円の増加となりました。これは主に長期借入金の増加によるものです。

以上の結果、負債の部は52,260百万円と前連結会計年度末比13,184百万円の増加となりました。

(純資産)

純資産の部は、43,581百万円と前連結会計年度末比1,764百万円の増加となりました。これは主に利益剰余金の増加、その他有価証券評価差額金の減少および非支配株主持分の増加によるものです。

(キャッシュ・フローの状況の分析)

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ8,567百万円減少し、27,929百万円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果使用した資金は、2,448百万円（前年同期は2,083百万円の支出）となりました。これは主に税金等調整前四半期純利益5,886百万円、売上債権の増加15,522百万円、仕入債務の増加14,985百万円、棚卸資産の増加4,078百万円、未収入金の増加2,098百万円、法人税等の支払額1,587百万円によるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、4,675百万円（前年同期は1,462百万円の支出）となりました。これは主に持分法適用関連会社株式取得による支出3,167百万円、固定資産の取得による支出744百万円、投資有価証券の取得による支出411百万円、貸付けによる支出320百万円によるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は、1,443百万円（前年同期は4,291百万円の支出）となりました。これは主に配当金の支払額1,959百万円、長期借入金の返済による支出1,877百万円、長期借入れによる収入2,950百万円、短期借入金の純減額549百万円によるものです。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	36,597	28,029
受取手形、売掛金及び契約資産	10,936	27,891
電子記録債権	1,957	523
商品及び製品	339	546
仕掛品	1,902	4,408
原材料及び貯蔵品	1,997	2,695
商品化権	1,734	2,312
その他	3,441	4,850
貸倒引当金	△37	△22
流動資産合計	58,868	71,236
固定資産		
有形固定資産		
土地	1,929	1,929
その他	3,365	3,630
有形固定資産合計	5,295	5,560
無形固定資産		
のれん	1,677	1,535
その他	1,210	1,182
無形固定資産合計	2,888	2,717
投資その他の資産		
投資有価証券	7,959	10,499
長期貸付金	681	998
その他	5,407	5,028
貸倒引当金	△207	△199
投資その他の資産合計	13,841	16,326
固定資産合計	22,024	24,605
資産合計	80,893	95,841
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	12,402	27,388
短期借入金	6,549	6,000
1年内返済予定の長期借入金	2,794	2,767
未払法人税等	1,358	280
賞与引当金	273	281
役員賞与引当金	159	-
その他	6,952	5,891
流動負債合計	30,489	42,609
固定負債		
長期借入金	3,994	5,093
退職給付に係る負債	862	893
資産除去債務	1,213	1,146
その他	2,515	2,517
固定負債合計	8,585	9,650
負債合計	39,075	52,260

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	7,948	7,948
資本剰余金	7,390	7,390
利益剰余金	24,217	26,373
自己株式	△1,644	△1,632
株主資本合計	37,912	40,079
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,194	26
為替換算調整勘定	1	1
退職給付に係る調整累計額	12	8
その他の包括利益累計額合計	1,208	36
新株予約権	45	115
非支配株主持分	2,651	3,350
純資産合計	41,817	43,581
負債純資産合計	80,893	95,841

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
売上高	42,230	67,015
売上原価	32,542	54,666
売上総利益	9,687	12,348
販売費及び一般管理費	6,153	6,977
営業利益	3,534	5,370
営業外収益		
受取利息	1	6
受取配当金	2	128
仕入割引	58	11
持分法による投資利益	114	400
出資分配金	10	8
その他	105	46
営業外収益合計	292	602
営業外費用		
支払利息	44	28
貸倒引当金繰入額	6	-
資金調達費用	2	2
その他	20	35
営業外費用合計	72	65
経常利益	3,753	5,907
特別利益		
固定資産売却益	1	0
特別利益合計	1	0
特別損失		
固定資産除却損	0	7
減損損失	-	13
会員権売却損	7	-
特別損失合計	7	21
税金等調整前四半期純利益	3,747	5,886
法人税等	435	1,061
四半期純利益	3,311	4,825
非支配株主に帰属する四半期純利益	775	701
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,536	4,123

四半期連結包括利益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
四半期純利益	3,311	4,825
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	14	△1,167
為替換算調整勘定	0	0
退職給付に係る調整額	△1	△2
持分法適用会社に対する持分相当額	-	0
その他の包括利益合計	14	△1,169
四半期包括利益	3,326	3,655
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,550	2,952
非支配株主に係る四半期包括利益	775	702

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	3,747	5,886
減価償却費	363	426
のれん償却額	126	142
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	3	△22
賞与引当金の増減額 (△は減少)	11	8
役員賞与引当金の増減額 (△は減少)	△46	△159
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	28	26
受取利息及び受取配当金	△3	△134
持分法による投資損益 (△は益)	△114	△400
支払利息	44	28
出資金償却	289	338
売上債権の増減額 (△は増加)	△5,377	△15,522
棚卸資産の増減額 (△は増加)	158	△4,078
未収入金の増減額 (△は増加)	△850	△2,098
仕入債務の増減額 (△は減少)	2,721	14,985
有償支給取引に係る負債の増減額 (△は減少)	△697	453
未払又は未収消費税等の増減額	46	△1,222
その他	△1,912	376
小計	△1,460	△966
利息及び配当金の受取額	3	134
利息の支払額	△44	△28
法人税等の支払額又は還付額 (△は支払)	△581	△1,587
営業活動によるキャッシュ・フロー	△2,083	△2,448
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△439	△596
有形固定資産の売却による収入	4	0
無形固定資産の取得による支出	△115	△147
投資有価証券の取得による支出	△380	△411
投資有価証券の売却による収入	23	37
関係会社株式の取得による支出	-	△141
持分法適用関連会社株式取得による支出	-	△3,167
出資金の払込による支出	△528	-
貸付けによる支出	△33	△320
貸付金の回収による収入	13	4
その他	△7	66
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,462	△4,675
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△818	△549
長期借入れによる収入	-	2,950
長期借入金の返済による支出	△2,508	△1,877
自己株式の取得による支出	△0	△0
配当金の支払額	△645	△1,959
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出	△306	-
その他	△12	△7
財務活動によるキャッシュ・フロー	△4,291	△1,443
現金及び現金同等物に係る換算差額	0	△0
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△7,836	△8,567
現金及び現金同等物の期首残高	32,304	36,497
現金及び現金同等物の四半期末残高	24,467	27,929

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用の計算

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純損益に当該見積実効税率を乗じて計算しています。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	コンテンツ &デジタル 事業	P S 事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	5,770	35,332	41,103	1,127	42,230	—	42,230
セグメント間の内部売上 高又は振替高	276	1	277	0	278	△278	—
計	6,046	35,334	41,380	1,127	42,508	△278	42,230
セグメント利益	1,623	1,933	3,556	33	3,589	△55	3,534

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、フィットネス事業等を含んでいます。

2. セグメント利益の調整額△55百万円には、セグメント間取引消去△55百万円が含まれています。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っています。

II 当第2四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	コンテンツ &デジタル 事業	P S 事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	7,336	58,878	66,214	800	67,015	—	67,015
セグメント間の内部売上 高又は振替高	72	144	216	5	221	△221	—
計	7,409	59,022	66,431	805	67,236	△221	67,015
セグメント利益	1,980	4,506	6,486	20	6,507	△1,136	5,370

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、フィットネス事業等を含んでいます。

2. セグメント利益の調整額△1,136百万円には、セグメント間取引消去53百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,190百万円が含まれています。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っています。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

当社は、2022年10月3日付で実施した持株会社体制への移行に伴い、前第3四半期連結会計期間より、従来の単一セグメントから、「コンテンツ&デジタル事業」、「PS事業」の2つの報告セグメントに変更しています。

なお、前第2四半期連結累計期間のセグメント情報は、変更後の報告セグメントの区分に基づき作成しています。